

# 各派代表質問行われる

二月二十七日、翌二十八日の本会議で、平成十九年度予算議案に対する各派代表質問が行われました。各派の質問者、主な質問項目は次のとおりです。

## 日本共産党鎌倉市議会議員団（高野洋一議員）

- 財政問題（市税収入など）
- 大船観音前マンション開発について
- 行財政改革のあり方について
- 大船駅東口再開発事業について

## 神奈川ネットワーク運動・鎌倉（三輪裕美子議員）

- 行財政改革の推進について
- 子育て支援について
- 子どもの安全について

## 鎌倉同志会（前川綾子議員）

- 世界遺産登録推進に向けて
- 子育てについて
- 学校教育について

## 自由民主倶楽部（本田達也議員）

- 大船観音前マンション開発問題について
- ごみの広域処理問題について
- 労働金庫住宅ローン利子補て

## 公明党鎌倉市議会議員団（藤田紀子議員）

- チャイルドファースト社会について
- 保健医療福祉について
- 文化・観光施策について

## 民主党鎌倉市議会議員団（山田直人議員）

- 土地利用について
- 環境保護対策について
- 地域医療について

## 新年度予算に対する評価と見解

# 日本共産党

党議員団は、行財政改革のあり方や鎌倉のまちづくりに関わる行財政の問題などから一般会計予算、大船駅東口再開発特別会計予算など五議案に反対し、その他の議案については賛成しました。

### 【財政問題（市税収入など）】

今年度の市民税は、約十九億円の増収見込みであり、そのうち個人市民税は約十五億円の増収見込みとなっており、これは定率減税の廃止や人口増などによるものであり、市民生活の全体的な改善によるものではありません。一方で、国民健康保険料の滞納や生活保護、就学援助が増加していることなどから、市税の増収分は何よりも市民の負担軽減を図る立場で、国保や下水道への一般会計からの繰り入れを増やすなど、市民生活に還元する施策を実施するよう強く要求しました。

### 【市政運営のあり方をたずねる】

現市政をみると、個別施策では賛成しうる内容も含まれていますが、そもそも市政運営の基本姿勢について根本的な問題があります。市政運営において各事業の効率的な運営に努めるのは当然ですが、福祉や教育など市民生活に密着した分野は、市民との協働を図りつつ鎌倉市としての公的責任を果たす立場での対応が必要です。そのため、特に行財政改革に関わり、職員数適正化計画や民間委託の推進などを市民ニーズや職場実態に即して見直すこと、雇用について市と

## 新年度予算に対する評価と見解

# ネットワーク鎌倉

市民から預かった税金は、市民のニーズを的確にとらえ、公平公正かつ、未来に責任を持つての使い方をすべきです。一般会計予算については、開行行政の不備、環境の視点の欠如など問題が多いことから反対しました。

### 【入札制度の見直し】

鎌倉市の入札は、工事案件だけに限られ、指名競争入札も残っています。また、担当課で行なう契約も多く、透明性の上で問題です。契約検査課で入札を行なうことと全面的な電子入札の導入を求めました。

### 【保育園の待機児童対策】

子育て世代の転入により、保育園の待機児童が毎年増加しています。保育園の新設とあわせ、小規模保育施設を活用して早急に解決していくべきです。また、子どもが病気になるための「病児保育」を実現するために、ファミリーサポーターセンターの活用を提案しました。

### 【子どもの人権オンブズマン制度の導入を】

学校では三年前に事故防止会議を設けましたが、教員による不祥事を防止できません。人権擁護のための「子どもの人権オンブズマン制度」導入とCAPの充実が早急に必要であると指摘しました。

### 【福祉の先進モデルを】

介護保険制度が改正され、介護予防に重きが置かれるようになりました。今後、認知症予防や助言などの取り組みが急がれます。特別養護老人ホームの待機者は現在五百六十一人おり稲村方崎と今泉の開所で一時的に減少しますが、ショートステイやケアつき住宅などの施設整備の充実が必要です。

### 【開行行政の見直しを】

宅地開発が市内各所で行なわれ、鎌倉らしい街並みが急速に失われています。市は、緑や河川などの市有財産を開発区域に編入して開発を認めると、景観資源を守る姿勢に欠けています。市民への開発手続きについての説明会やホームページへの進捗状況載せなどのきめ細かい情報提供とともに、市民の意見を広く聴くことが必要です。また、法的規制を逃れるために、一つの土地を時期をずらして開発する細分化開発については、「まちづくり条例」に明確な判断基準を設け、防止に努めることが急務です。さらに、各課の開発審査に現況の環境保全という視点が欠けている点を指摘し、市民との意見交換を図るよう提案しました。戦略的に環境アセスメントを行ない、鎌倉のまちづくりに環境に配慮すべきと考えます。その他、小学校単位での防災訓練や災害弱者を対象とした訓練、新耐震基準前のマンションの耐震診断への補助を提案しました。

## 新年度予算に対する評価と見解

# 鎌倉同志会

鎌倉同志会は平成十九年度一般会計予算ほか諸議案についてすべて賛成致しました。好景気の実感相変わらず乏しい財政状況ではありますが、総合計画を着実に推進し、「子どもが元気に育つ美しい鎌倉」をめざして、きめ細かな質の高い行政サービスの提供をさらに進めようとする、石渡市長の新年度予算を高く評価しています。また、政策形成に当たっての行財政運営には、短期的な「戦略」より長期的な「戦略」が必要と考え、地域における人づくり「教育」と、長期的視点に立ったまちづくりの重要性を要望しました。

### 【世界遺産登録推進に向けて】

国は世界遺産一覧表への登録に向けて、公募による暫定リストの選定作業をしているとのこと。昨年鎌倉は、推進協議会を立ち上げ、その広報活動により市民の盛り上がり努力しています。十九年度には、神奈川県、横浜市、逗子市、鎌倉市の四市の連携により推薦書原案の作成等を行う予定となっています。四県市が、足並みそろえて取り組んでいけるようさらなる努力を要望しました。

### 【子育てについて】

児童相談所における児童虐待の相談件数は増加しています。その背景には、核家族化や家族の抱える社会的、心理的な様々な問題に加え、地域の子育て機能の低下を背景として家族の養育力不足があ

### 【放課後子どもプラン】

文科省は、放課後や週末に児童を預かる「放課後子ども教室」を来年度から設ける方針を明らかにしています。空いている教室などを利用して、退職教員、教職をめざす大学生、地域ボランティアが勉強やスポーツを教えるというものです。同時に厚生労働省で「放課後子ども教室」と同一小学校内で十歳未満の児童を対象に従来の学童保育を行うことを計画。二つを融合し「放課後子どもプラン」としていきます。子ども同士のコミュニケーション不足の解消や、安全安心な居場所づくりとして市内での実施を要望しました。

### 【高齢者の社会参加】

「団塊の世代」が定年年齢に到達し始めた現在、自らの能力や経験を発揮し、退職後にも希望に応じた就労を通じての社会参加、地域におけるボランティア活動、またはシルバー人材センターで老人クラブなどによる様々な活動に積極的に参加できるように、充分な対応を要望しました。